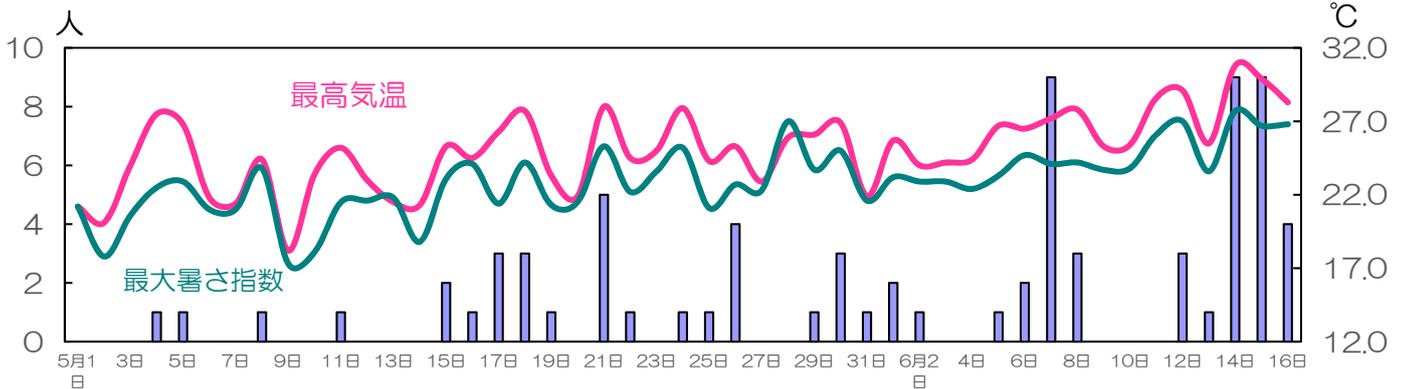


# 熱中症情報

## <搬送数>

令和6年4月29日～6月16日までの搬送数（消防局データを使用）は、計75人（4月0人、5月31人、6月44人）でした。6月7・14・15日は、搬送数が9人/日と、期間内で最多を記録しました。6月14日は、最高気温が30.8℃で、今年初めての真夏日でした。

熱中症は、梅雨入り前の5月頃から発生し、暑い日が続いてくると多発する傾向があります。気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。身体がまだ暑さに慣れていない梅雨の時期は、蒸し暑い日、風が弱い日、日差しが強い日等に増加する傾向がありますので、こまめに水分を取り、室温を適切に調節し、熱中症の予防に努めましょう。



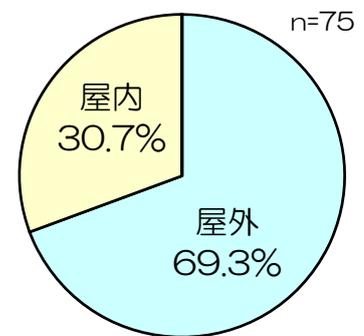
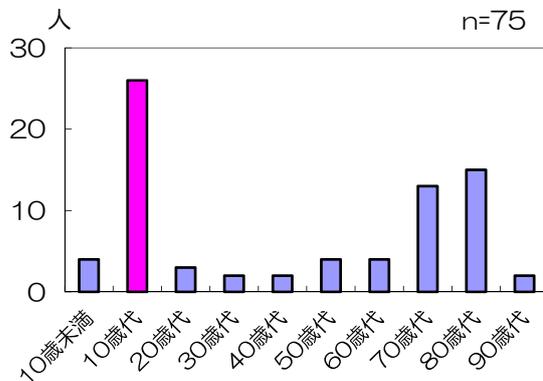
**暑さ指数とは？**人間の熱バランスに影響の大きい①温度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数\(WBGT\)とは？](#)」をご覧ください。

## <年齢別>

10歳代が26人(34.7%)で最も多く、次が80歳代で15人(20.0%)でした。

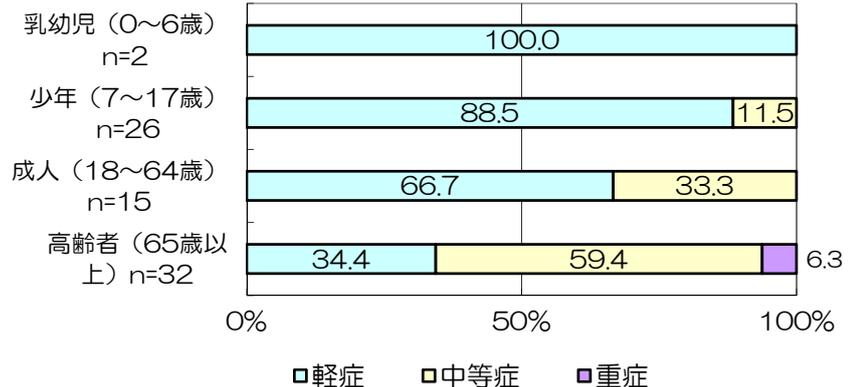
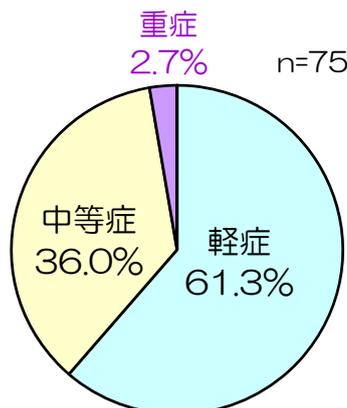
## <発生場所>

屋外69.3%、屋内30.7%で、屋外での発生が多くなっています。



## <重症度\*>

軽症61.3%、中等症36.0%、重症2.7%でした。高齢者で中等症以上の割合が65.6%と高い傾向が見られました。



\*重症度の定義（横浜市熱中症情報）